

〔八丈島特産園芸作物における生産振興技術対策〕

新しい切り葉作物イシカグマの施設栽培技術の確立

～遮光が羽片の形状に及ぼす影響と冬期の葉の切除が収穫葉に及ぼす影響～

中田亜由美・菊池知古・宮下千枝子*

(島しょセ八丈) *現園芸技術科

【要 約】 19%, 34%, 50%の遮光処理では、遮光率が高くなるほど最長羽片の長さおよび幅は増加傾向を示す。また、冬季に展開葉を3～4枚/株まで整理した場合、収穫葉の54%以上がLサイズ以上となり、収量、曲がり葉の割合は全切除と同程度であった。

【目 的】

イシカグマはレイを作るときに、羽片をちぎり編み込んで使用するため、羽片が長いものが良いとされるが、新葉の出芽数が最も多くなる2月前後には新葉が成葉に接し、曲がりが多くなることが懸念される。そこで本試験では、遮光が羽片の形状に及ぼす影響と新芽の曲がりを防ぐため冬季に全ての展開葉を地際部で切除することが収量に及ぼす影響を明らかにする。

【方 法】

2010年5月に19%, 34%, 50%の青色遮光ネットを張ったビニルハウスにイシカグマを定植した。2011年5月から12月まで月に一度収穫を行った後、12月下旬に地上部をすべての展開葉を地際部で切除した切除区と古葉と傷んだ葉を中心に株あたり展開葉を3～4枚まで整理して残した整理区を設けた。収穫調査は整理区の新芽が展開した2012年6月上旬に行い、遮光条件が羽片の形状に及ぼす影響、収量、収穫葉のサイズ、および軸の曲がりの割合を調査した。

【成果の概要】

1. 最長羽片の長さおよび幅は各試験区とも収穫葉のサイズが大きくなるにつれ増加した。同一サイズでは遮光率が高くなるほど、最長羽片の長さおよび幅は増加する傾向を示した(表1)。
2. 同一遮光率では、切除区に対し整理区の収量は97～111%となった。また、遮光率が高くなるほど収量は減少した(図1)。
3. 収穫葉のサイズ別割合をみると、いずれの遮光区でも切除区ではL以上のサイズの割合が0.2～3.1%であったが、整理区では54～92%となった(図2)。
4. 収穫枚数に占める曲がり葉の割合は、切除区は0.8～11.8%, 整理区で1.4～13.4%と同程度であった(表2)。
5. まとめ: 19%, 34%, 50%の遮光処理では、遮光率が高くなるほど最長羽片の長さおよび幅は増加傾向を示す。また、展開葉の整理区では収穫葉の54%以上がLサイズ以上となり、収量、曲がり葉の割合は切除区と同程度であった。

表1 遮光率の違いによるサイズ別^aの最長羽片の長さおよび幅

遮光率	長さ (cm)				幅 (cm)			
	3L	2L	L	M	3L	2L	L	M
19%	16.7	14.7	13.2	12.9	3.0	2.8	2.7	2.2
34%	18.7	15.8	15.0	13.2	3.3	3.0	2.7	2.1
50%	18.2	16.0	14.2	13.9	3.7	3.3	2.7	2.5

a) 3L:葉身長 70 以上 2L:70~60 L:60~50 M:50~40 S:40~30 2S:30~20 単位:cm

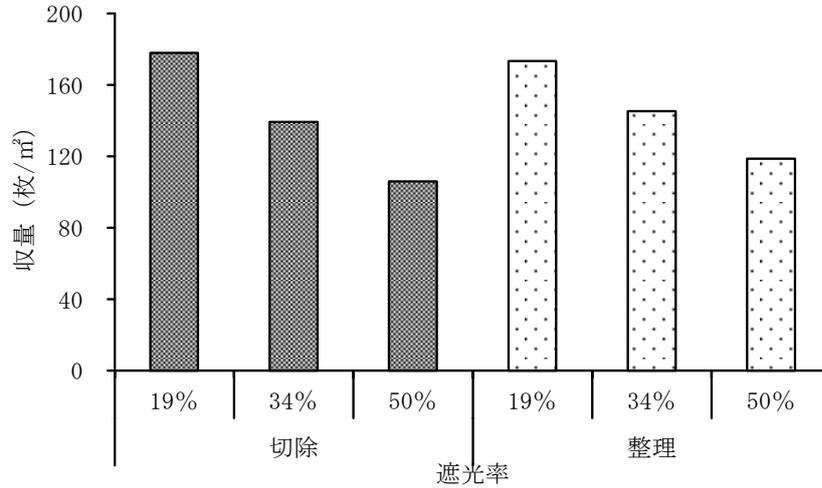


図1 冬季の葉の切除が収穫葉数に及ぼす影響

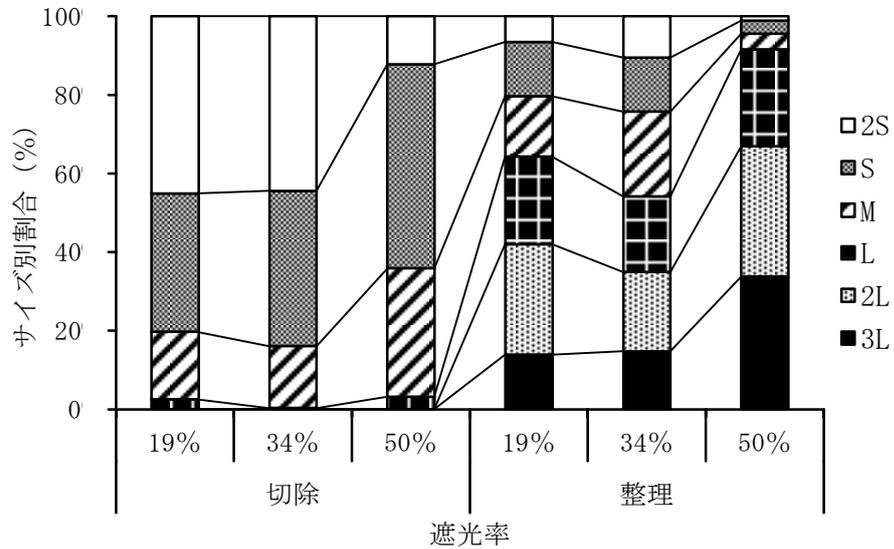


図2 切除区と整理区の収穫葉のサイズ別割合

表2 収量に占める曲がり葉の割合

試験区	曲がり葉の割合 (%)		
	19%遮光	34%遮光	50%遮光
切除	11.8	0.8	3.1
整理	3.1	1.4	13.5